

7月8日、Jリーグの3試合において人権啓発活動が実施されます。人権啓発の課題の一つに、意識のない人にどうやって伝えるか？があります。このようなスポーツ会場での取り組みは、人権を意識するきっかけとして大切です。私もが行っている人権啓発パネル展も、公共施設で行っており、その意図は同じです。少しでも多くの方が、人権により関心を持っていただきたいと願い継続して行っています。



食事とは“命をいただく”ということ

食べ物が作られた“由来”を知ることの大切さ

私たちが食するお米やパン(元は小麦粉等)、肉や魚、野菜や卵などが、いつどこで誰の手でどのように作られたのかを、どこまで理解しているでしょうか？例えば、鶏卵を例にとると、或る店舗で見かけた1パック10個入り・220円ほどの一般的な卵と、1パック6個入り・330円ほどの「平飼」卵(→価格は前者の約2.5倍)には、どのような違いがあるのでしょうか？

日本で飼育されている採卵養鶏の約9割強は「ケージ(鳥かご)飼」です。つまり、金属製の連結した鳥籠(ケージ)に、1羽当たり平均・約4百㎢(≒B5用紙大)の面積で密集的に飼育されています。

これは、安価な卵の大量生産には向いています。しかし、生き物である鶏には相当な苦痛を強いています。例えば、羽を広げることができず、敷料や糞、砂場、止まり木など、鶏が習性上求める素材が設置できていません。このため、鶏にストレスが溜まりやすく病気にもなりやすいため、薬剤(消毒剤や抗生剤など)の使用が多くなりがちです。ちなみにEU(欧州連合)では、1999年にこうしたバタリーケージの使用が禁止されました。ケージ飼育であっても、止まり木や砂場、巣の設置が必要とされています。

一方、平飼卵とは、鶏舎内や養鶏場の屋外の地面で放し飼いにする飼育方法です。ケージ飼育のような多段・密飼いではないため、飼育コストは割高となります。同じ卵でも、ケージ飼いと平飼いでは、飼育方法や値段にこうした違いがあります。消費者がこのような違いを知ったうえで、商品を選ぶことが大切だと思います。

大切な“アニマルウェルフェア”(家畜の福祉)という考え方

最近、“アニマルウェルフェア(家畜の福祉)”という言葉をよく聞きます。それは、家畜の誕生から死を迎えるまでの間、ストレスをできる限り少なくし、本来の行動要求が満たされた健康的な生活ができる飼育方法をめざす考え方です。(※1)

世界的な潮流となっているアニマルウェルフェアについて、山梨県では、全国の自治体では初となるアニマルウェルフェアの認証制度である「やまなしアニマルウェルフェア認証制度」を令和3年度に創設しました。

そして今年6月24日には、県内の5つの畜産事業者(黒富士農場(甲斐市)、清泉寮ジャージー牧場(北杜市)、ぶうふうう農園(韮崎市)、甲州地どり生産組合(笛吹市)、望月農場(南部町))が山梨県(農政部畜産課)から初のアチーブメント認証(いずれも最高位の三ツ星)を受けました。(※2)

こうした取り組みも契機となり、日頃食べる畜産製品やその他食品の由来について、多くの県民の方々が一層関心を持って頂けることを期待します。健全に育った農産物こそが私たちの健康を育み、地球環境の保全にも役立つと思います。

(※1)
ともすたKIDS
「小学生でもわかる
アニマルウェルフェア」



(※2)
山梨県
「やまなしアニマルウェルフェア
認証制度について」



活動報告

- 人権啓発パネル展 7月5日(火)～7月18日(月)、甲府市中央公民館、甲府市立図書館にて、「命のメッセージ展」と題して人権啓発パネル展を開催。
- 人権啓発映画会 7月16日(土)、甲府市立図書館にて人権啓発映画会を開催。
- 人権移動教室 7月20日(水)、甲斐市立竜王北中学校にて人権移動教室を開催。

今後の予定

- 人権啓発パネル展 8月10日(水)～8月15日(月)：甲府市総合市民会館
8月10日(水)～8月23日(火)：甲府市北東公民館
- 人権啓発講演会 8月3日(水)：甲府市上下水道局
- 人権啓発映画会 8月13日(土)：甲府市総合市民会館



人権移動教室の授業を受けた子供たちの感想文が、裏面にてご覧いただけます。



国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ランチ
特定非営利活動法人横浜国際人権センター山梨

会長：横山隆史

〒400-0031 山梨県甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1 階事務室
TEL. 055-243-8563 FAX. 055-243-8564 <http://yamanashi.yihrc.or.jp/> E-mail. yamanashi@yihrc.or.jp

< 協賛 >
山梨県
甲府市
甲斐市

協賛企業：(株)成心設備、西関東開発(株)、(株)ウィルマート、(株)R&C、(株)フジコー、(株)渡辺工業所、甲府市管工事協同組合、(株)とちの木

人権移動教室に参加した子どもたちの感想文をご紹介します。

甲斐市立玉幡小学校 (六年生女子)

「死にたくない」。しあわせになりたい。その二つがだけれど願っている言葉と杉藤先生に教えてもらった時、わたしはみんなと同じ願いを持っているんだなと思いました。人権とは、命としあわせを守るために持つていく権利とわかりました。わたしは、人権はこれからも、命としあわせを申すていてほしいと思います。杉藤先生がこころをこころに飛べた時のように飛行機から下りる

時も、杉藤先生の横を通らお杉藤先生がおりおわ。それから、いしにのっていた乗客の人はおりましたときいた時に、わたしも、もし杉藤先生のたち場だたらすごくうれしかったと思います。だからわたしも、こまっっている人がいたら助けてあげたりして、みんなに、かんしゃされる人になりたいです。人権尊重は、人を大切にあることを言うことがわかりました。わたしはこれから、人権や人権尊重を大切に生きていきたいと思いました。

甲斐市立玉幡小学校 (六年生女子)

はじめにだれにでも同じ答が二つあると聞いて、わたしは何んだらうと思っいて、答えは、一つは死にたくない、二つは幸せになりたいことが初めて知りました。わたしも同じ答えを言っているのかなと考えたら、幸せになりたいをなんとも言ってたなとおもい出しました。わたしはもう一つ初めて知ったことが人権という言葉です。人権の意味は、死にたくないことと、幸せになりたいことを

守るためのけんり。人権は、命と幸せを守るけんりを持つていることがわかっていい勉強になったと思います。今日の勉強を通してわたしは、教えてもらったことや、先生の宿題、一ヶ月に一回鏡の前に立つて先生が教えてくれたことをし、かり中ろうと思いました。あと、おじいちゃん、おばあちゃんや友達がこまっいていたら、助けてあげようと思ひました。今日は、たくさんのかことを教えてくれてありがとうございました。